

公表

2025年度 児童発達支援事業所ひかりぐみ 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ひかりぐみ		
○保護者評価実施期間	1/19/2026		2/6/2026
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 25	(回答者数) 24	
○従業者評価実施期間	2/24/2026		2/27/2026
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8	(回答者数) 8	
○事業者向け自己評価表作成日	1/16/2026		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども園の敷地内にあり、子ども同士が遊びや生活のモデルとなり、刺激を受けられる。 また、刺激が調整された、ひかりぐみの保育室が別にあることで、落ち着いて過ごせる自分の居場所も保障されている。	お互いの遊びが見える場所で活動したり、子どもの興味に応じて園の行事やクラスの活動に参加している。 ひかりぐみの室内はその日の利用児に合わせ玩具や遊具の設定、給食の座席配置を変更している。	子ども達が自然に関わり、あたたかい交流ができるよう、引き続き、こども園も含めた職員同士の理解、連携を図る。 こども園、学童クラブ、支援センター等、園内の職員向けに、ひかりぐみを紹介する機会をあらためて作る。
2	日ごと、季節ごとに変化のある広い園庭で、全身を使って、心ゆくまで遊べる時間を保障している。凸凹や坂、泥、水たまり、日差しの変化や風、草花の匂いなど、運動機能だけでなく体性感覚も養われる環境が身近にある。	できるだけ毎日外遊びができるよう、活動を設定している。こども園の子どもが多く遊ぶ時間帯、子どもが少ない時間帯など、通所する子どもの状況に合わせて時間を選んで園庭に出ている。	引き続き、ひかりぐみ職員もこども園職員や保護者と一緒に、園庭整備に参加する。ひかりぐみの保護者も園庭整備に誘い、広く地域で繋がりがあえる機会を作っていく。
3	セラピスト(言語聴覚士、理学療法士)が在籍しており、日常的に関わることで専門的なアドバイスが受けられる。	非常勤の理学療法士は、必要のある子が評価や助言、訓練を受けられるよう、出勤の曜日を調整している。 日々の振り返りの場にセラピストが参加することで、他の職員とも共有している。	振り返りや会議の場で顔を合わせ、密にコミュニケーションをとることを意識する。 作業療法士や心理士など他のセラピストの募集を検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発信が弱く、療育の意図を保護者に伝えきれていない部分がある。	子ども自身が、遊びから学び育つという支援方針が、わかり難い。	送迎時、親子通所、写真掲示などを通じて、支援者が直接伝える機会を増やすことで、子どもの成長につながっていると実感できるようにする。
2	保護者同士のつながりを支援することが不十分な部分がある。	送迎時、遠足などでは、交流について保護者に任せる状況があり、交流しにくいと感じた可能性がある。	保護者同士のつながりを支援する場であるということがわかりやすい環境を設定する 園内のカフェを保護者同士の自由な交流の場として案内するとともに、懇談会や講演会の会場とすることで、カフェを利用する敷居を下げる。